

第22回「市民と市長のふれあいトーク」の内容（要旨）

と き 平成28年1月13日（水）
テーマ 文化財保護について
参加者 玉置 明正さん（堺町）
末澤 敏男さん（河辺）
實成 喜久治さん（中北下）
橋本 惣司さん（林田）
藤木 靖史さん（南新座）

文化財について勉強するため、学習会や視察などを行っている皆さんと市長が意見交換を行いました。



参加者 古い家の蔵などを壊す際、保管されている歴史的価値のあるものを後世に残すことが必要です。そこで、家に代々伝わる古文書やそのほかの文書、食器類などの価値を把握し保管するシステムがあれば、大切な歴史遺産を保存することができると思います。古い物を捨てる前に、市の専門家チームに保管するかどうか判断していただき、津山の宝として残すことができないかと思っています。

市長 歴史的な価値の高いものを後世に残すことは大切です。現在『津山市史』を編纂（きんさん）していますので「古いものがあったら、まずは郷土博物館にご相談ください」と広報などで呼び掛けができればと思っています。現在でも一報を受けると、郷土博物館などの職員が現地に出向き、古文書や食器類など、保管が必要かどうかを確認しています。

例えば、古文書や学校のアルバム、名簿、古写真はすべていただき、和書漢籍類や教科書類、食器類、農機具などは重複しない範囲でいただいています。そして、丁寧な取扱いが必要なものは収蔵庫へ、普通の状態で大丈夫なものは倉庫へと、判断して保管しています。

参加者 市民の皆さんが古文書を読み、津山市の報告書として出版できると良いですね。また、収容したものを貸し出して、展示したり、食器などをお店で活用したりできれば良いと思います。

市長 市民の皆さんのご協力による出版は、今後検討すべき課題だと思います。資料として郷土博物館にいただいたものは、市民の皆さんに見ていただきたいのですが、保存や管理を考えると貸し出しは難しいです。また、古い食器をお店などに貸し出すことも難しいですが、郷土博物館への収蔵とは別に、お店などで使える仕組みができると良いですね。

今回、皆さんが歴史遺産を保存し、次世代に継承しようと日々努力されていることがよく分かりました。今後、皆さんからも知恵をお借りして文化財を保存していきたいですね。そして、さらに、文化財候補を掘り起こす取り組みができればと思っています。